

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成 29 年度第 4 回広報広聴推進委員会 A部会 (地域住民への情報発信部会)	
開 催 日 時	平成 30 年 2 月 14 日 (水) 10:00～11:30	
開 催 場 所	宍粟市役所北庁舎 4 階 401 会議室	
議長 (委員長・会長) 氏 名		
委 員 氏 名	(出席者) 委員：鎌田恵司、前野良造、春名豊滋	(欠席者) 委員：古根川淳也
事 務 局 氏 名	秘書広報課 小河秀義、亀井俊宏、平岡覚、高山陽子、山内一輝、杉元伸弥	
傍 聴 人 数	なし	
会議の公開・非公開の区 分 及 び 非 公 開 の 理 由	公開・非公開	(非公開の理由)
決 定 事 項	(議題及び決定事項) *内容 ・情報発信(しそチャンネル)の現状と課題 ・しそチャンネルの加入促進の取組について ・しそチャンネルのPRについて ・今後の部会運営方針について	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認	(委員長等) ー	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	○開会 ・出席者自己紹介 ・前回議事録確認 ・しそ情報BOX、しそチャンネルPR動画 視聴(20分程度)
事務局	ここからはしそチャンネルの魅力向上に向けた意見交換とさせていただきます。
委員	情報BOXは、山崎のイベントが多いが山崎で放送することを意識して作っているのか。
事務局	時期によりイベント開催が少ない等がある。意識的に山崎のイベントに集中しているわけではない。
委員	情報BOXでの紹介が終わったイベントばかりになっている。今後、開催されるイベントの告知は出来ないのか。
事務局	別番組でイベント情報という番組で告知を行っている。情報BOXは今後、参加型番組等の作成を見越して、担当者の顔が見える番組として制作している。
委員	イベントだけでなく、地域活動への密着取材等を行ってはどうか。地域おこし協力隊の活動を取り上げることで、どのような地域活動が行われているかの周知になるのではないかと。
事務局	地域の方々を取り上げる番組の制作を検討している。
委員	イベントばかりではなく、市内の文化、歴史にふれるドキュメンタリーのような番組の制作も必要ではないかと。
事務局	文化や歴史に焦点を当てた番組は必要と考えている。また、市民に出演していただく参加型番組を制作したいと考えている。 情報BOXでコグニサイズ(認知症予防運動)を放送したところ、生徒が増加した等、反響を得ている。
委員	企業や自治会のおもしろい取組を取り上げられないか。山崎町大才町の公民館が新しく出来たといった小さな話題でもいいので、生活に関係する話題を取り上げていけば観ていただけるのではないかと。
委員	元気元気大作戦に取り組んでいる団体を取り上げてはどうか。千種のリズムダンス動画は千種町内で好評を得ている。地元の人が参加しているのが要因ではないか。身近な人が出演していれば観たいと思える。
事務局	スタッフの数が限られており、全ての活動を撮影することは難しいので、地元の方に撮影協力いただけるようにしていきたい。
委員	地域活動にも予算が必要である。撮影に協力いただいた方に謝礼を出せば、地域活動の助けに

	もなるので、協力していただけるのではないかと。
委員	お寺や郷土研究会に働きかけることで、地域の民謡や独自の文化について掘り起こしを行えるのではないかと。
事務局	若者向けの番組としてはグルメ番組が有効と考えている。
委員	姫路ケーブルテレビでお店を取り上げてもらったところ、反響があった。
事務局	単独のお店だけを取り上げるのは難しいので、宍粟のスイーツ等、特集を行う形で複数の店舗を紹介する形なども検討したい。
事務局	ご指摘いただいた内容について、前向きに検討したい。しかし、行政放送という面から対応が困難なものもあるので、可能なものから対応していきたいと思う。
委員	人口減少を食い止めるための番組を考えてはどうか。IターンUターン者向けの番組、市内の企業紹介や子育て環境の紹介を行ってはどうか。
委員	社会福祉協議会でも結婚相談、出会いサポートセンターの活動を行っている。そういった情報の発信も人口減少対策として重要ではないかと。
事務局	検討したい。
委員	就職や結婚の情報発信の際、対象として当事者となる若者世代を想定することが多いが、親世代へ情報を発信していくことで、親から子へ情報が伝わるのではないかと。
委員	結婚相談事業でも悩みを抱えて来られるのは親世代が多い。
事務局	親世代への有効な情報発信方法等を検討したい。
委員	文化会館や防災センターで、しそチャンネルを放送してはどうか。総合病院は入っているのか。
事務局	総合病院は入っているが、チャンネル変更等、常時流れているわけではないと思う。
委員	提示いただいた施設やその他の施設での放送について、検討したい。
事務局	いただいたご意見について、前向きに検討し進めていきたい。

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成 29 年度第 4 回広報広聴推進委員会 B部会 (広聴部会)	
開 催 日 時	平成 30 年 2 月 7 日 (月) 10:10~11:40	
開 催 場 所	宍粟市役所 5 階 501 会議室	
議長 (委員長・会長) 氏 名		
委 員 氏 名	(出席者) 大柿委員、平野委員、小野委員、梶本委員	(欠席者) なし
事 務 局 氏 名	秘書広報課 課長三木、秘書係長西嶋、広報係主査上月	
傍 聴 人 数	なし	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	公開・非公開	(非公開の理由)
決 定 事 項	(議題及び決定事項) <意見交換で出された意見> ① 広聴事業のネーミング変更  次回日程は、来年度開催を予定	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認	(委員長等) ー	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	<p>【B部会：広聴事業の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前回12月8日開催時の提案内容について確認 「平成29年度宍粟市広報広聴推進委員会（広聴部会）の協議資料」に基づいて説明。</li><li>・整理番号2 広聴事業の取組について、「もう少し市民に分かりやすいネーミングを」について協議をお願いしたい。</li><li>・陳情要望、来庁相談・投書、HP問い合わせ、市民提案制度、市政モニター、市民アンケート、ふるさと市民制度については近隣市町の状況などをみても現状のまま変更は検討なしでよいかと考えている。</li><li>・①タウンミーティング（行政懇談会）、②ふれあいトーク（地域づくり懇談会）、③ふれあいミーティングについては前回提案があったとおり、ネーミングを変更することにより市民によりわかりやすく、参加してもらいやすくなる効果があるのではないかと事務局サイドでは考えており、今回部会において協議願いたい。④パブリックコメントについては、ネーミングの変更ではなく、実施方法を工夫することにより意見聴取がより多く見込まれると考えられるので、方法について協議をいただきたい。</li></ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"><li>・近隣市の状況をホームページや聞き取りにて情報収集したので「各市の広報広聴事業一覧」を確認いただきたい。事務局としては、主に①タウンミーティング（行政懇談会）、②ふれあいトーク（地域づくり懇談会）、③ふれあいミーティングについて協議いただきたいと思っている。よろしいか。</li></ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・このネーミングになってどのくらいの期間がたつのか。</li></ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"><li>・ふれあいトークから地域づくり懇談会にネーミング変更してから、今年度で3年が経過する。ふれあいミーティングは当初からであったと記憶している。ふれあいミーティングについては、連合自治会やPTA、老人クラブ、民生委員児童委員協議会などでテーマをお知らせし、応募について案内している。自主的な活動をされている団体などで把握できていないところには案内できていない。案内を発出した団体からはかなり反響をいただき、今年度は現在30件の依頼があった。テーマは掲げているが、テーマにないものであっても、依頼があれば対応するようにしている。今年度は「ゴミ」についての説明依頼が多かった。</li><li>・30件と言われた中には、今年度のごみ処理の説明会も含んでいるのか。</li><li>・各自治会別で開催した市の説明会は含んでいない。説明会前に依頼があり、別途説明したものは含んでいる。</li></ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・これ以外に、ネット上で市長とのやりとりとかをしている自治体もあるが、これは宍粟の場合はどうなのか？</li></ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"><li>・市長と直接というものはないが、各担当課に教えてほしいことなどのメールを送ってもらい、それについて回答するということは行っている。広聴事業一覧の3番目にある「ホームページ問い合わせ」の中で、各担当課への問い合わせがあったらその内容に回答して直接個人とのやりとりで対応するということはできる。各課に直接送れたりもするが、代表アドレスの秘書広報課に来るものは、秘書広報課にて振り分けて各課に送っている。</li></ul>

委員	・それはかなりあるのか？
事務局	<p>・市のインフォ窓口にくるのは、今で 50 件はないと思う。内容を確認すると、担当課があるもの、営業メールであったりする。市長に意見をというものがあれば、秘書を通して市長に見ていただいて対応させて頂くこともある。これは年間、数件。担当課がしている事業について詳しく教えてほしいという問い合わせが多い。一番多いのは、地域創生が担当している空き家バンクに対する問い合わせ。市政に関する提言などのメールはほとんどない。</p> <p>地域づくり懇談会に関しては件数少ない。今で、i 考会をのぞいて 5 件。i 考会を含めると 12 件。</p>
委員	・どのような内容なのか。
事務局	<p>・地域づくり懇談会に関しては、「市政に対する考え方」や「今後、未来の宍粟を語ろう」という大きいテーマ。タウンミーティングで話されているような内容を盛り込みながら「市が今このような計画を立てている」「市長の想い」などを聞きたいという申し込みがある。</p>
委員	・「あれをこうしてほしい」など要望はあるのか。
事務局	<p>・地域づくり懇談会は要望会ではないため、それはない。それぞれの想いや市政について、市長の想いなどの内容。相生のコスモストークはほとんどが要望会だそうだが、宍粟市は今のところそのかたちではない。昔の行政懇談会は要望会だったが、それをなくすということでタウンミーティングに変更したので、要望会ではなくなっている。タウンミーティングは「今からの市政について一緒に考えよう」という会になっている。各自治会の陳情要望はまとめて出してもらい機会があるので、その時をお願いしたい。タウンミーティングは、市が現在、地域創生事業を進めているので、今取り組んでいることなど説明させてもらって、それに対して「ここを修正した方がいいのでは」というような提言を頂きたいというのは、市としては考えていた。</p> <p>昔は各小学校の自治会単位で細かく話を伺っていたが、今は中学校区などの単位にして広い範囲で提案などを頂くよう、名称もタウンミーティングに変更した。</p>
委員	<p>・このような場で細かい要望を聞いていたらきりが無いが、「市の将来を語り合う」というのも、意見は言いにくい。市的にそのようにするのなら、まずは地元の困っているところをしてくれとなるのかな、と思う。</p>
事務局	<p>・波賀にも行ったが、最初はなかなか意見出なかった。格式ばった場だと発言しにくくなる。</p> <p>・細かいことを言われたら、担当がいないと答えられなかったりしたため、各部長に参加してもらったことはある。</p>
委員	<p>・今、説明してもらったら理解できるが、その時に来たらなかなか入口の方とかも自治会は理解していないと思う。例えば、細かい要望などを文章で出すのと、市長らに直接口頭・面談で言うことでは違いがあると思う。「大きな未来の人たちのことを考えて」という話だと意見は少ないし参加者も減ってくるようになると思う。入口をもっとわかりやすく市民の人たちに出す。細かいことでも、その人（個人や地域）にとればとても重要なことである。例えば、「足腰弱いお婆さんがいるが、A コープが廃止になって買い物難民になって困っている」など、原点に戻って市民の人の小さい意見でも出せるようなタウンミーティングや地域懇談会にすべきではないか。タウンミーティングなどを何回したなどでは評価すべきではない。自治会長などには、今言った説明をきちんとする必要があるし、担当者が少数で参加して市長が毎回参加する必要もない。参加して「よかった」というのは、市からアクションが返ってきて実感も</p>

委員	<p>てるようなタウンミーティング。市長が同席された上で、意見を聞いてもらって「結果このようになった」というのは市民にとってツールであり、参加できたという実感を持ってもらえるのではないかと。</p> <p>・市の将来を考えて各団体の意見をもらうというのも必要だが、末端の市民意見の方が現実味あって実現しやすいと思う。</p>
事務局	<p>・山崎東中校区のタウンミーティングでは「庄能の交差点のところで交通事故が多く、中学生なども通るので直してほしい」という意見があった。色んな意見があるため、市民の意見を取り入れることは大切だと思う。ただ制度を作っていないとなかなか難しい。ふれあいミーティングを市民が聞きたいテーマにしたら、意見を出してもらえやすいと思う。また少数の方が意見出しやすい。このような制度が使えるということが市民に伝わっていないので、わかりやすいネーミングにすべき。</p> <p>・タウンミーティングも交流的なものを作っていないといけないと考えている。ふれあいミーティングや地域づくり懇談会なども有効活用できる方法を考える方が市民にとって優しいのではないかと。</p> <p>・先日、タウンミーティングをテーマ別に変え、「子育て世代」と「若者世代」を取り入れるようにした。子育てで来たお母さん方も「市長と直接ざっくばらんに話せてよかった」と言われていた。参加してもらったらわかると思うので、申し込み増やすためにも今後さらに浸透させていきたい。そのためには、誰にでも分かるようなネーミングにしなければいけない。</p> <p>・地域づくり懇談会とふれあいミーティングを来年度もっと重点において行っていきたい。</p>
委員	<p>・具体的な名前が良いと思う。「市長との」「職員との」などわかりやすいネーミング。「出前」や「出張」でも良い。見て、来てもらえるネーミングに。そしてPR方法をもっと考えなければいけない。若者にも見てもらえるようにネットを活用するなど色々考えるべき。</p> <p>・地区で回覧板は大体出るのか。</p>
事務局	<p>・回覧というのは今ほとんどない。山崎などは残っている。</p>
委員	<p>・しーたん放送などでは流せるのか。</p>
事務局	<p>・しーたん放送はできる。</p> <p>・しーたん放送は「〇日にふれあい喫茶があります。みなさん来てください。」 回覧板は「〇日のふれあい喫茶は〇〇さんが担当です。」というようなお知らせ。紙ベースの方が見るし残るので良い。だが、回覧板は家族の代表の人は見るが、同居している若い人たちは見ないと思う。見て回すため残らない。</p>
委員	<p>・持論を言えば「出前」や「出張」はあまり好ましくないイメージだが、市民側からしたら「来てもらった」という感じで良いかも。</p> <p>・入口では、タウンミーティングや懇談会など趣旨が分かるように説明をしておいて、ネーミングはシンプルに出す方が良いのでは。案にある地域づくり懇談会については「市長を交えて宍粟市の将来や大きな展望についてのことを皆で話し合しましょう」ということ。タウンミーティングや地域懇談会では市の想いというのが伝わっていない。今、説明してくれたようなこ</p>

	<p>とをもう少し分かりやすくすべき。タウンミーティングでも、紙面上に書いて違うだけであって、市長がおられたり職員がおられたりで対応することは同じだと思う。この違いをもっと丁寧に書いてあげたら、もっと参加率も増え、実のある懇談会になるのでは。結論は、今の地域づくり懇談会というのを例えば「市長との懇談会」などわかりやすくしていくのが良いのでは。今となったらタウンミーティングというのなかなか分かりにくい。これだと「行政懇談会」の方が参加する側からしてもわかりやすい。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の方からしたら、困っていることを聞いてもらえるという場がいい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いてもらえたら安心感がある。小さい意見でも大きい意見でも何でもいいから「聞いてもらえる」という場はどこでも必要。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タウンミーティングは3年していてまだ年月は浅い。ふれあいミーティングや地域づくり懇談会は言葉だけでイメージできないので市民の人もあまり分かっていないと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タウンミーティングとふれあいミーティングは「市民からか、市役所からかでやりますよ」と言っているだけの違いになっていると思う。</li> <li>・シンプルに1つにした方が良いのでは。姫路も相生も1つにしていると言われていた。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンプルに「市長懇談会」とか「出前懇談会」とか。「出向いて行きますよ」ということが少し分かるようにした方が良いのでは。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『市長懇談会』します。」となった時に「場所はどこです」などを伝えるので「出前」と付けなくても分かるのではないか。「職員説明会」だと、ある方が良いのか無い方が良いのか分からないが。職員だと「行かしてもらおう」というのが分かる方が良いのかもしれないし。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のところ、ふれあいミーティングで「市役所です」というのは無く、公民館とかの方が多い。シンプルに「市長懇談会」にするか、元々が「地域づくり懇談会」だったので「地域づくり市長懇談会」にするのでも良いのかなと。「市長懇談会」の方が分かりやすかったら「地域づくり」は抜いてもよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域づくり」と付いていたら、「域づくりっぽいことを考えないといけないのかな」と思うかもしれない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域づくり懇談会」は「市長懇談会」で内部提案して調整させていただきたい。</li> <li>・職員から説明に行かせてもらうのは「出前」とか「出張」とかついた方が良いのか。基本は公民館などに行って準備や健康体操など、何にでも対応はするのだが。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の自治体で「講座」とつけているのは、どのようなものがあるのかと見ているのだが。健康体操とかなら説明会ではなく講座のような気もする。そういった事を考えると、講座の方が良いのか。「事業について聞きたいこと」とかなら説明会だが、「福祉の制度について」とかなら説明というよりも、教えてもらおうということで「講座を受ける」なのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し柔らかいニュアンスになるので、「説明会」とかではなく「講座」とつけてあるのかもしれない。「説明会」だと堅いイメージもあるため、宍粟市役所では「ふれあいミーティング」にしているのかもしれない。</li> </ul>



委員	・ふれあいミーティングは意見交換会の場なのか、制度とかを教えてくださいませんか？
事務局	・テーマがあり、こちらから行かせてもらって説明させてもらうので、こちらからの話が多い。それについての質問等があれば答えさせてもらって意見交換させてもらうという形がほとんど。
委員	・普通の説明会でも最後に意見交換の時間があると思うので、その意見交換というのはどうなのかなと思う。
事務局	・説明もあれば健康体操なども入ったりもするので、何でも申し込みがあればお応えするというもの。
委員	・聞く方も伝える方もだが、「宍粟」はいらない。例えば「市長懇談会」の感じで、「相手は市長ではなく職員が良い」という場合は「ふれあいミーティング」。入口だけはちゃんと説明だけする。  ・先ほど出た「タウンミーティング」と「市長懇談会」を一緒にという選択肢は事務局側では全然ないのか。分かりやすく市長交えての話の部分と個別の健康体操でも事業の説明でもふれあいミーティングに2つに分けて行う、というのも1つの選択肢かなと思う。
事務局	・タウンミーティングを無くせるかどうかは、他の課とも議論しなければいけないので、それは持ち帰らせて頂いて検討する。今も行政懇談会でやってきているのと、市長との懇談会で一応分けてやってきている。  ・全く同じ入口にしてするというのは、タウンミーティング自体を無くすということになるから、また内部で協議しなければいけない。
委員	・どちらになってもしやすく、人の意見を聞きやすいような体制にすべき。「タウンミーティング」でも「市長懇談会」でも結果的に同じような人が行って、同じような会議するので。
事務局	・市長懇談会が充実したら、タウンミーティングは別にしなくても良くなる。
委員	・個別の案件はふれあいミーティングでそれぞれやっていけば良いということ。
事務局	・今の市長懇談会やタウンミーティングの違いは、この市長懇談の「地域づくり懇談会」は市長だけが行かれる時がある。タウンミーティングは職員も行って説明などをするので、それを一緒にするというのは、また協議させていただきたい。
委員	・今の説明の「市長との懇談会」というのは市長という立場と、もう1つ政治活動の中で自分の想いを共有できる人で話をしたり、課題が一緒にできる人など、そのような類もあると思う。市長の政治姿勢の中で、市長としての考え方なので、これは大いに残して行っても良いと思う。全体として考えるのなら、やり方を考えたら1つでも問題はないのかなと思う。
事務局	・他のところが1つにしているところもあるので、今言われた意見のように、できるだけたくさんの人と懇談できるようということで作られているのかなと思う。このような意見があったので、内部協議が必要と考えている。

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員からの説明の「しそふれあいミーティング」のネーミング。職員か市役所が中に入っている方が分かりやすいとは思うがどうか。市長懇談会は「市長が行かれる」と分かってシンプルで良い。</li> <li>・タウンミーティングにそのまま残してするのなら、タウンミーティングとしそふれあいミーティングの違いというのが分かりにくい。これを残して行うのなら「職員ふれあいミーティング」でも見やすい。3つを同列にしてネーミングを考える。</li> <li>・10名以上の団体の5件というのはどのようなものなのか？</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成会や昭和会やいなほの会など。各自治体でされているものもある。今の5件は、29年度のもの。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明とか「健康体操を教える」とかだけで良いのなら、市役所出前講座とか職員出前説明会とかで良いのかなと思う。ただ、市長懇談会の職員版も含まれるのなら、その名前だと分かりにくい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「職員の出前講座」でもシンプルで良いかもしれないがどうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「職員の出前講座」でも分かりやすくして良い。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいミーティングはなるべく馴染みやすいように崩したのだと思う。職員の出前講座の方が的は得ている。ふれあいミーティングはイメージが湧きにくい。「職員の出前講座」でも良いか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い。</li> <li>・市長懇談会は自発的に自分たちで人数集めて申し込むという形になるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうである。10人くらい集まってもらえれば開催できる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の人から言われなくてももらえないのなら、「あなたが作る市長懇談会」とかサブタイトル的なのがあれば分かりやすい。自分たちから申し込むというのが分かりにくい。「市長懇談会」だと、そのようなものがあるのかなと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「作る」だと「作らなあかん」みたいになるため「あなたができる」などの表現がよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サブタイトルはまた良いのを考えていただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネーミングの方はこちらで、また内部に提言させていただく。</li> <li>・先ほどの最初の説明の中でした通り、パブリックコメントを行っている。政策会議などで決定したものを公表し、市民の方から計画や新しい条例などを作るときに見ていただき意見を頂戴して、市長がその意見に基づいて計画や条例を見直したりする制度になっている。やり方としては、計画案などができた時点で、実施期間に市役所や各市民局の窓口や市のホームページで30日間、閲覧できるということで公表させてもらっている。可能な限りしーたん通信やしそチャンネルなど放送でもお知らせしている。また、市の広報紙でもできる限りお知らせしている。しかし、去年パブリックコメントを実施したが、それについての意見はなかった。今</li> </ul>

	<p>年も何件かパブリックコメントしている。案件には障害福祉計画の見直しなどがあり、それについては1人から意見が出ている。義務教育振興にかかる前期基本計画があったが、それについては0人というのが状況。基本計画については意見が出てきて良い内容ではと思う。パブリックコメントの仕方自体が問題なのか、市民に興味を持っていただく方策が必要ではないかと考える。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般市民の人に直接関係なかったら、意見としては難しい。パブリックコメントで意見があったものは後日公表しないのか？</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公表している。意見に対しての市の考えは直接本人に返すのではなく、ホームページ上で返すようにしている。広報には載っていないので、ホームページが見られない人はわからないが、窓口に行けば閲覧することができる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想いを持っていてしてくれているので丁寧に返さなければいけない。中小企業の振興の条例はパブリックコメントで4件ほど意見が出ているが、まだ反映されていない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ集計ができていない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果はどのような形でフィードバックしているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のところ、制度上はホームページで返している。広報紙などを見たときにパブコメの記事があれば、市民のみなさんは「見てみよう」と思われるか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接、自分に関係がある事業計画などがあれば見るかもしれない。広報紙での「パブリックコメント実施します」というのはどこぐらいにあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報ステーション」のコーナーに掲載している。色々な市からのお知らせが縦書きで書いてあるところ。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの新着情報とかだと見るかもしれないが、広報だと目が行き届いていないかも。12月にパブリックコメントが5件ほどあったと思うが、それは広報には載っていないものなのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報には載っていないが、しーたん通信、しそチャンネルやホームページなどにてお知らせしていた。今後、広報には確実に掲載するようにしていく。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この窓口は市役所関係しか置かないのか、置けないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一応、制度上はそこにしか置かないと決めている。この窓口はもう少し広げても良いかなと考えている。人の見やすいところに置かないといけない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい福祉計画などは、そのような施設のところにあったら気になって見られる人もおられるかもしれないが、わざわざ市役所に来る機会はそんなにないので、「パブリックコメントをやっている」ということを知らずに終わっているということがあるのではないかと。</li> <li>・あまりにも分厚すぎて読む気にもならないのかなとも思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置できるところを検討するのが良いかもしれないので検討させていただく。対象の施設に</li> </ul>

委員	<p>対して設置できなくてもお知らせをするだけでも大切かもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字ばかりの計画書なのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字ばかりのものが多い。図も入っているものもあるが、ほとんど分厚いもの。2～3枚で済むものは文字が多い。見る気になれないと感じられるものもある。計画だと、データの結果を載せて分析して、最後に結果という流れ。</li> <li>・施設や該当するところに直接PRすることとかを検討させてもらう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報広聴推進委員会について今年度は今日で最後。また来年の5月頃を目処にさせてもらいたいと思う。全体会議で決定するので、また日程が決まり次第、お知らせする。</li> </ul> <p>(11時40分 会議終了) 01:28</p>

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成 29 年度第 4 回広報広聴推進委員会 C 部会 (移住・定住に向けたシティプロモーション部会)	
開 催 日 時	平成 30 年 2 月 5 日 (月) 10:00～12:15	
開 催 場 所	宍粟市役所 4 階 401 会議室	
議長 (委員長・会長) 氏 名		
委 員 氏 名	(出席者) 井関准教授、前井委員	(欠席者) 高田委員、 加藤委員、樽本委員
事 務 局 氏 名	企画総務部次長 上長、地域創生係長 池田、広報係長 宮辻	
傍 聴 人 数	なし	
会議の公開・非公開の区 分 及 び 非 公 開 の 理 由	公開・非公開	(非公開の理由)
決 定 事 項	(議題及び決定事項) <意見交換で出された意見> ① ② ③ ④ ⑤ 次回日程は、3月中(月・火・木)を予定	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認	(委員長等) ー	

## (会議の経過)

発言者	議題・発言内容
	<p>【C部会：移住・定住に向けたシティプロモーション】</p>
事務局	資料（空き家バンクの状況、森の家づくりの状況など）の説明
委員	空き家バンクのホームページ掲載はいつからか。飛躍的に伸びている時期があるが、何か特別なことをしたのか。
事務局	掲載を始めたのは22年度からで、伸びたのは空き家調査の結果だと思う。調査の翌年に所有者に空き家バンクの活用を勧める文書を送ったり、固定資産税の通知の際に空き家バンクの活用についての文書を同封したため登録が増えた。最近空き家バンクの知名度も上がってきて、登録すると空き家が売れるかもしれないということが広まってきている。空き家バンクの活用も増えている。
アドバイザー	空き家バンクは売ることだけか。貸すこともあるのか。
事務局	所有者は貸すこともあるが、ほとんどは売買を希望している。売れるならば売ってしまいたいということが多い。一方で利用者は、とりあえず借りたいという意見が多い。そこでミスマッチが生まれている。
委員	市外の利用者に対しては何かプロモートしているか。実際に見てみると、市外の利用者が半数以上を占めているが。
事務局	とくにはしていないが、皆さん熱心にHPを見ているようだ。新しい物件が出るとすぐに見学の申し込みがあることもある。
委員	登録者には新しい物件が追加になった時に通知はあるのか。
事務局	追加されるたびにはできないが、定期的に全ての物件情報を送っている。利用者はお年寄りもあり、紙ベースで送る形なのでどうしても情報が古くなり、ホームページで見るほうが早い。
委員	物件の場所はどのあたりの地域が多いか。
事務局	登録物件は点在している。一宮・波賀・千種が多い。山崎もあるが、値段が高かったりするので、成約は北部地域が多い。山崎は不動産屋の流通に掲載できる場合がほとんどである。
委員	資料の数値を見ると空き家バンクはうまくいっている感じがする。市外にもっとプロモートすることで、もっといいことになりそうだ。
アドバイザー	前回聞いたと思うが、転入と転出の数値を教えてください。あと定住推進室で定めている目標はどのくらいか。
事務局	特に定めてはいない。ただ、空き家バンクや森の家づくりなどの制度を使って27年度からの5年間で50人だったのではないかと記憶している。他にもお試し住宅なども整備しているので、全ての制度を合わせてトータル50人。
事務局	最近3年間の転入転出の資料を持ってきた。29年度は学校の転出などが多くなる3月が来ていないが、現在のところ転入が524人、転出が714人となっている。28年度は転入653人、転出

	1045人、27年転入744人、転出1147人である。
アドバイザー	転出超過が続いている。そうすると、年間10人という数字がどうやって出てきたのか。移住定住を進めていくとなると、どのくらいの数値を目指すのかということが重要になってきて、アプローチの方法も変わってくる。一年間10人くらいならば今のままでも達成していることになる。空き家バンクが動き出してみると、思っていたよりもたくさん転入者が来る。そうすると、5年50人よりは上を目指してもいいのではないかと思う。こういうことをやるうえで、年間何人くらいを目指すのかということは、共有していたほうがいい情報である。
委員	人口を増やしたいということは、転入と転出を逆転しないといけないくらい。3年間を見ても、だいたい出ていく人は毎年1000人くらいいる。
アドバイザー	社会増減をプラマイゼロにするには、新規に300人くらい転入がないといけない。そこには、完全に他所から来る人だけではなく、一回出た人が帰ってくることも考えられる。
事務局	来年度、一旦出ていった学生を何とか戻して来ようという取組のための予算を置いたり、そういったことに活用するための基金を3月議会に提案して、市の産業界やいろいろな立場の人に集まってもらって、施策として進めていく。
アドバイザー	それは結構重要かと思う。高校教育の中にそういう観点の取組を入れるということは他の地域でもやっていること。高校のうちに地域とのつながりを作って、地域で頑張っている人などと交流した思い出を持ってもらう。これまでは、高校に任せきりで、まちの魅力を伝えることもせず、「なぜ出ていくんだろう？」となっていたが、最近は全国的にこういう取組が進められている。
事務局	私たちも同じだが、市内には機械の部門でシェアナンバーワンの企業などがあるがそういうことを、高校生に伝えきれていないという反省もある。そういったことも新年度予算で対応していきたい。
事務局	仕事については、ちょうど明日市内の企業が集まった就職フェアが行われる。就職を考えている高校2年生に来てもらって、企業の方に仕事を説明してもらう。30社程度の企業が集まる。こういった取組を近年始めている。
アドバイザー	高校生は自主的に来るか。
事務局	学校にも協力してもらいながらになるが「就職を考えている生徒はぜひ来てください」という形で行っている。午後2時くらいに学校が終わって、生徒たち自身が興味のある企業の話聞く。
事務局	高校を卒業する18歳と大学を卒業する22歳の減少が多いので、そこに対する取組をしていかないと転出超過には対応できない。大卒までは住所をこちらにおいて住民票だけある状態が多い。そこに対応しないと、空き家バンクだけでは目標に近づくことはできない。
委員	大学生は住民票だけおいて出ていく形がほとんどか。通いはないか。
事務局	通うとなると姫路近辺の大学に限定される。もしくは京阪神で高速バスを使って通っている生徒も18人ほどあり高速バスの定期的補助もしている。神戸であれば、山崎から1時間半で行ける。

アドバイザー	姫路の大学にいるが、神戸や西宮から通う学生は1時間では来れない。そうなるここから通うことも無理ではない。
事務局	バスの補助は社会人もあるが、社会人は通勤手当があるので、申請をされている人はごくわずか。ほとんど学生が補助を利用している。
アドバイザー	移住定住にかかるターゲットを整理すると、一番若い世代は高校生。高校生には「そのままいてください」または「今出ていくかもしれないけど、将来的に帰ってきてほしい」ということ。次に、宍粟出身で外に出ていて、今宍粟市外に住んでいる人。3番目に宍粟出身ではない、完全に外部の人ということになる。今回のターゲットは、高齢者ではなくて、こういった若い世代の人。子育て世代の40代くらいまで。それで、トータル1000を目指すということ。すでに600~700の転入があるので、残り300を目指す。その目標に対して、今やっている空き家バンクや、来年度から始める高校生向けの施策など、300人の転入を増やすために、どんな施策があるのかのリストを出してもらって、それを見ながら意見を出し合って、何が足りないのかを検討していく。そのために、アンケートやインタビューが必要になってくる。前回の話の中で、「働く」ということがポイントとして挙げられた。住むところはいいとして、働く場所がないとだめだ。宍粟市側から「こういう仕事をする人を募集する」というような、働く側からのアプローチをしたほうがいいのかと思う。 〇〇さんが作ってくれた資料についても説明してもらおう。
委員	前の会議では高校生のことはぜんぜん挙がらなかったもので、そこは資料には入っていない。
アドバイザー	地域創生課としては、人口維持を目標にしているのか。
事務局	維持ではない。人口減少の割合を緩やかにしていきたいと考えている。人口減少社会で人口が減るのはしょうがないが、どこかで止めたいという考えがある。転出の中に自然減は含まれていない。自然減も年間300人くらいあり、トータルで年間600人くらい人口が減っている。直近の目標としては、2020年に37,000人を維持することが現市長の任期中の目標となっている。
委員	この間は外からの人をという話だったが、実は高校生や大学生の流出を食い止めるほうが効果的でそこの方が大きいと思う。市内の人は住む家があるから、あとは職かなと思う。
アドバイザー	高校生、大学生と、宍粟出身者。Uターン狙いIターン狙いということ。今日、ターゲットは増えたが、目指すのは住むところと働くところ。
委員	高校生、大学生はやはり職だと思う。
事務局	住むところも、姫路など都市部に出てしまうので、何とかしたいと思っている。姫路で勤務して、住むところも姫路になると困るので、せめて山崎でと思っている。住居はこちらにおいて、通いで姫路に仕事に行ってほしい。それで、「森林の家づくり」という補助事業を始めた。当然、市内の会社に勤めてもらいたいというのはあるが、それだけでは足りないので、たつの姫路で就職されても、家は宍粟においてもらおうようにと思っている。  ～森林の家づくり資料の説明～
アドバイザー	目標とする生活パターンは、宍粟に住んで宍粟で働く、宍粟に住んで近隣で働くという2つになる。そういう形を使って何とか300人を維持したいということ。



<p>委員</p>	<p>前回議論したことだが、住宅の方はけっこう充実していると思うので、一方の仕事のあっせんの方をどうするかだと思う。住宅と仕事は両輪だという話だったので、それを図にした資料を作成した。これは調査設計をどうするのかという前段の資料だが、細かくターゲットを設定すると、Uターン、Iターンの中でも2つに分けられる。1つ目は自然の中で子育てがしたい人、2つ目は自分が田舎に住みたい若い人、両者は気持ちに違いがあると思う。</p> <p>1つ目については、子どもが小さいうちは、「子どもを自然の中で育てたい」と思うが、子どもが大きくなるにつれて、「自分が子どもと一緒にアウトドアを楽しみたい」と意識や生活スタイルも変化するので2つに分けた。どちらにしても「自然の中で子育てを」と思い、家が欲しくなった時に空き家バンクを利用したり、「補助がもらえるなら家も一緒に建ててしまおう」と建てることもあるので、森林の家づくりの制度も一緒に見せれば良い。感覚でしかないが、小さい子どもがいる家は新築率が高いように思う。新しい家が建つと、必ずといっていいほど小さい子どもがいる。空き家バンクに抵抗を感じる人でも新築ならという人は多いと思う。仕事に関しては、子どもを育てるために仕事の業種や職種うんぬんよりも収入重視の人がいると思う。一家を支えるだけの収入は欲しいし、将来への貯えも必要になるので、実栗市内で働くというよりは、通勤してでも自然の中で住みたいというのが子育て世代なのかと思う。</p> <p>もう一方の「田舎暮らし憧れシングル」と書いたが、男女年齢問わず、今、都市部の会社員や学生やフリーターで、自然の中に身を置きたいと考える人がいるのではないかと。そういう人には、空き家バンクもいいけれど、独り身なので安く借りられる賃貸でもあればいいかと思う。仕事に関しては、仕事内容も農業だったり林業だったり自然にかかわる仕事や、酒蔵での仕事など、そういう田舎ならではの仕事を求めているのではないかと。</p> <p>子どもがいるか、一人で飛び込むかによって、家と仕事に求めるものが違ってくるのではないかと仮説を立てた。さらに、一人で来る人については、移住者を受け入れる土壌があるかの不安はある。東京近郊でも移住者の多い田舎はあるが、移住者同士のコミュニティもあり、「移住しやすい市」というイメージがある。似たような性質の市でも、移住者に対して優しい市かどうかは重要であり、移住先の候補に挙がるかどうかにつながる。そういうことも、実際に移住しようという人にとっては不安材料になる。</p> <p>この資料は、前回の話からの調査への仮説として記しているが推測でしかないので、これからうまく家と仕事に求めるものを調査・インタビューとして採れば良いと思う。</p> <p>今日の資料に転入転出者に対してのアンケートがあるが、前回空き家バンク登録者にアンケートができるかどうかという話だったがどうなったか。空き家バンク登録者に今後の参考に取らせてほしいと依頼し、抽選で〇名などのプレゼントをつければ、アンケートへの答えも増えると思うが。</p> <p>また、インタビューについて候補者を挙げていただいている。前回の議事録では、インタビューの様子をホームページにという話になったが、インタビューとHPでの掲載は分けたほうが良いと思う。インタビューは快く受けってくれると思うが、それを公共のところに載せるとなると抵抗がある。インタビューは多くの人にしたいが、そのあとで本人に掲載について相談した方がよいと思う。あと、加藤委員も加えてもいいのでは。制度は違うが、実際に田舎に一人で飛び込まれた人なので。</p> <p>意外に皆さんいろいろな制度を知っている。私が知らないだけかもしれないが。</p>
<p>アドバイザー</p>	<p>インタビューやアンケートをするときに、相手のことがわからないのでいろいろ選択肢を作って聞いてしまうことが多い。それはそれで意味があるが、聞いたあとには必ず集計のグラフを作る。ではその次は？という戦略が欲しい。地域創生課で作ったアンケートでは、問9の「居住環境として重視したものは何か？」と聞いて、答えが出た後にどうするか。インタビューも聞いて何を指すのかということが大事なので、確認したい。あと、地域創生課の問題意識と、広報でやることは、重なる部分もあるがイコールでもない。調査を何のためにやるのかということ。今移り住んだ人が、実際にどんな困難を抱えていて、その困難に何らかの対策をとるのか。あるいは、転入を考えている人が知らないことを、どうやって満たしていくか。転入検討</p>

	<p>者の背中を押すポイントを検討するということに使うのか。転入した人が、どこが転入への背中を押してくれたか。そのあたりを聞いて、情報発信に活かしていければと思う。アンケートや調査は、やろうと思えばいろいろできるが、そのあたりを定めておきたい。</p>
事務局	<p>地域創生の立場と広報広聴の立場ですることは確かに違う。このアンケートはまだ使ってはいない。窓口で転入転出の届けに来てくれた人をお願いするイメージ。</p>
アドバイザー	<p>千葉県流山市のPRサイトを見てもらいたい。民間出身の人が市の職員となって推進している。流山市は秋葉原から1時間くらいのつくばエクスプレス沿線の街で、なんとか流山に来てもらいたいとのことで、『母になるなら、流山市』というサイトを立ち上げている。市のHPとは別の完全にPRを目的としたサイトで、子育て世代に対して、都内に通いながら子育てをしませんかということ。これは先ほどの宍粟に住んで姫路で働くということと同じ考え方。流山に住んで東京で働くというライフスタイルでできるし、良い環境が整っているということを打ち出している。こういうことは市が言うよりも体験者に語ってもらったほうが伝わりやすい。どんな会社に勤めて、どんな私生活を送っているか。ここが面白いのは、プロモーションと合わせて住民サービスが連動していること。流山市の駅があって、市民はその駅を使って通うので、そこまで子どもを連れてくればその駅から子どもが所属している保育園まで送迎してくれるというシステムになっている。そういうサービスをセットで行っている。またコミュニティがあったほうが良いということで、駅の前に大きな広場をつくって、そこでマルシェなどの地域活動が盛んになるような仕掛けをしている。</p> <p>また、教育が一番重要だということで、外国人英語教師をたくさん雇うなど、教育にも力を入れている。当然都内の進学校などには及ばないが、流山市として頑張っているということを出している。サービスと発信はセットで行わないといけない。先ほどあった交通費補助なども、セットで発信していかないとけない。</p> <p>もう一つ紹介すると、福井県の大野市というまちがある。ここは『大野へかえろう』という、完全に高卒狙いのサイトを立ち上げている。「帰ろう」だから、一度市外に出てもいい、帰ってきたら良い生活が送れるということを出している。ここは、実は電通がやっていて、このサイトは大野で育った人に、「いつか帰ってきたいな」と思わせるように、日常的な風景の写真などを使っている。きれいだけど日常。「自分はそこで育ったんだな」と思えるような日常を見せている。観光客が飛びつくようなものではないが、懐かしく感じるような見せ方をしている。</p> <p>なかでも見てもらいたいのが「大人図鑑」というページで、みんな一度大野から出た人が帰ってきてどんな生活をしているかということを使って見せている。これはUターン狙い。Uターンしてからも地元でちゃんと働いているということを見せながら、「僕の大野へ帰る」というそれぞれのストーリーを発信している。闇雲に10何人選んでいるわけではなく、ちゃんと若い人にとって憧れになりそうな職業の人を適切なサンプルとして選んでいる。地域的には農業がもっと多そうな感じもあるが、あえてサービス業などを中心にしていて、おしゃれな喫茶店やアーティストも選ばれている。どんな人に帰ってきてほしいかを考えた上で、それに応じたターゲットを選択している。</p> <p>極めつけは、県立大野高校の卒業式に父母が生徒たちに歌を送るというパフォーマンスをしていること。「お父さんお母さんとしても帰ってきてほしいが、今は外の空気を吸ってきなさい」ということを卒業式で歌にしている。父母からのメッセージを映像化している。サプライズでしてしているので生徒たちの心にも残りやすい。歌詞にもピュアな思いが語られている。</p> <p>この映像は参考に見せたが、アンケートなどはただ調べただけでなく、施策につながっていくものである。プロモーションサイトに活かすことが部会のテーマであれば、アンケートもそれにつながっていくようにしないとけない。そういう風に考えていけたらと思う。</p> <p>移住者のサポートについても、地域創生課でやることと、広報でやることそれぞれの視点でやっていければと思う。</p> <p>「こんな空き家がありますよ」「こんな仕事がありますよ」という具体的な情報や、支援制度</p>

	<p>など紹介していくこともありだと思し、その情報の前に根底にある不安などを取り除いていくような印象的なアプローチも考えられるので、そのあたりを定められればと思う。</p> <p>移住を考えている人にお金がどれくらいかかるかなど、具体的な情報を伝えていくことが今必要なのか、または「大人凶鑑」のように移住した人がどんな生活を送っているかを見せて、「このまちはいいかもしれない」と思わせるような思ってもらえるような情報提供を考えていくのか。(移住の)スイッチが入っている人に具体的な情報を見せるか、そのスイッチを入れることを目標にするか。両方もありかとは思いますが。</p> <p>今の移住定住サイトの発信の現状次第のところはあるかもしれないが。</p>
事務局	<p>今のサイトはインタビューが載っているのと、支援制度へのリンクが中心で、どちらかといえば移住を本格的に考えている人向けかと思う。</p>
アドバイザー	<p>先ほどの流山市では、『母になるなら、流山市』と、流山に住みながら都内で働くライフスタイルを目標としている。今回の宍粟の場合は、ターゲットはどんな人たちが、どんなライフスタイルを送ってもらおうかのイメージをもう少し絞れると訴えやすくなる。宍粟に来ればこういう働き方や生活ができるし、そういう人を市として応援する。「こういう人にこういう暮らしを提案したい」というような目標を定めることは難しいか？</p>
委員	<p>空家バンク登録者にアンケートはとれるか。そこでポテンシャルの高い人を探すこと。具体的な施策と田舎暮らしの良さをセットで見せないと、表面だけの上っ面だけになってしまう。さっきの大野はすごくよくできているが、どのくらいサポートしているかはすぐにわからない。「きれいにできているけど、で？」となってしまう。具体的な施策が紐づいているとすごく強い。今、就職支援なども含めていろいろな支援をしている。新たな施策が必要かはわからないが、セットで見せて、そこに引き寄せられるターゲットに移住を勧める手もある。例えば、子育て世代は、「自然の中で子育てというのはすごく魅力があるけれど、じゃあ宍粟市の子育て支援ってどんなものがあるんだろう？」と考える。今はないが「森の幼稚園がある」と聞くと、「都会にはないものがあるんだ」と、そういうのが見えればすごく魅力的に感じる。今ある支援とターゲットを組み合わせて、移住を考える人をどう引き寄せることができるか。</p>
アドバイザー	<p>宍粟市ではどんな生活ができるか。やろうと思えば何でもできるとは思いますが、「これもできます、あれもできます」と言ったところで、移住しようとしている人は他の町でもいろんな選択肢がある。田舎で生活しようという人たちにとっては、宍粟市でなければならない理由や宍粟市ならではの暮らしができる時に初めて、宍粟市を選択するということになる。山崎のような都会的なところで都会的な暮らすことを目指す人は、「それだったら神戸に行くよ」ということになってしまう。森の幼稚園もそうだと思うが、他の町を否定せずに宍粟市らしい暮らし、宍粟市ならではの仕事・働き方を打ち出すと、まさに「それがやりたかったんだ」という人が遠くからでも来る。それができればいいかなと思う。</p>
委員	<p>移住や定住を考える人はいろんなパターンがある。子育て、田舎暮らし、高卒・大卒、Uターンなど。そこに紐づいて、それぞれに具体的な支援が必要になってくる。プロモーションとしてどこを押すかということで、流山市のように子育てだけに特化すればすごく強いプロモーションができると思うが、他にも求めるものによって、そこに具体的な施策を見せた上で、あこがれの暮らしをしている人を見せていけば、より効果的かと思う。具体的な施策がないと、本当に上っ面だけになってしまう。</p>
アドバイザー	<p>イメージとしては、「うちの店では中華もフレンチも和食も何でもできます」といっていると誰も来ない。「何でもできるけど、うちの店は中華でいきます。それはこの場所的に中華料理が一番おいしいからです。なので、中華料理の好きな人来てください」ということを打ち出していくことに近い。行政の制度としてはいろいろなニーズに応えないといけないので、制度は</p>

	<p>たくさんあってもいいし、予算があるなら他のこともやってもいいと思う。</p> <p>しかし、プロモーションというところを定めたい。予算の効率性など同じお金をかけるなら絞ったほうが良いのではないかなと思う。流山のように子育てに絞り切るくらいできればいいのかもしれないが、それでいいのかとは思っている。</p>
事務局	<p>よく言われることではあるが、どこの町でもいろいろな定住施策を打ち出していて、その競争に負けじとついていくことが大変である。空き家バンクであったり、就職の案内を充実しているという方向にはなっているが、移住者の奪い合いになっている部分もある。個人的には宍粟市では、時代の流れもあり一旦出ていくのは仕方がない。しかし、先ほどの大野市のように、そのうち戻ってきて自分のキャリアを宍粟市で活かしたいと思えるように、小学校中学校で宍粟の良さを教えてもらって、いずれ宍粟に戻ろうかと思えるようなことができればと思う。時間はかかると思うが、もうすでに30代40代になっている人たちを何とか戻ってきてもらえるような、先ほどの話のようなことができればいいかなと思う。</p>
アドバイザー	<p>戻ってくる人たちにどんなことを進めるか。</p>
事務局	<p>来年度、商工会の予定になるが、「都会で生活ではこのくらいの収入があるが、支出もこのくらいあるから、最終的にはあまりお金は残らない。宍粟では収入は少ないかもしれないが、支出が少ない分残るお金は意外に多い。あとは、環境的な部分があるから、宍粟に帰ってこよう」という内容のパンフレットを作りたいと聞いている。</p> <p>田舎であれば給料は下がるけど、それなりの仕事生活はできるということを打ち出していく。</p>
アドバイザー	<p>それは、移住定住に関連することでもいいアプローチだと思う。打ち出すポイントとしてもいいと思う。</p> <p>あと、移住者のリストを見て思ったが、食がらみが多いのでは？食べ物に関するもの。日本酒であったり、農業であったり、有名レストランのプロデューサーなど。以前に宍粟市と関わりがあった時に、宍粟牛などを食べた。森林セラピーなどもあり、食と健康を中心においた暮らしや仕事の提案を、宍粟市の移住の大きなテーマにしていくのもありかなと思う。</p>
委員	<p>賛成である。健康の関係の会議にも参加させてもらっている。「健康な田舎」といえばベタではあるが、重要なのではないかと話している。</p>
事務局	<p>来年の話になるが、広報紙で食や健康についてのコラムを作ろうかという話がある。手づくりの味噌や学校給食についてなどのテーマを考えている。</p>
委員	<p>宍粟の学校給食は素晴らしい。宍粟の一押しだと思う。</p>
事務局	<p>宍粟市は地産地消の分野が特に優れている。他の市町村では20～30%のところもあるが、宍粟では70%を市内の食材で作っている。そういうこともいろいろな人に知ってもらおうと、来年度に広報紙でPRしていく予定である。</p>
委員	<p>宍粟の大豆を使って給食用の味噌なども手作りしている。給食ではパンは食べない。宍粟のお米を食べるというように徹底している。</p>
アドバイザー	<p>それは移住を考える人に響くと思う。波賀のおふくろ工房や笹うどんなども、健康つながりで活用できるかもしれない。食・健康というテーマを、まちづくりのプロモーションのテーマにしていく。定住でも、それに関心のある人に来てもらったり、それを仕事にしてもらったりして活用できるのではないかな。農業も食の一つに考えられるし、オーガニックな部分でレストランやカフェ、加工などもある。今、点としてばらばらにあるものを、線としてプロモーション</p>

	する見せ方で、外から見ると健康や食の分野が豊かな地域に見えてくる。
委員	そのあたりを検証するために、健康食志向があるのかどうかを移住者のインタビューから探りたい。
アドバイザー	インタビューやアンケートをとるうえで、移住してよかったところに健康的な食生活や給食の充実が挙げられているかどうか。
委員	給食はとても素晴らしいのに知られていない。
アドバイザー	宍粟から見ると当たり前なものかもしれないが、外から見るとすごいとなるかもしれない。健康は時代的なテーマなので、健康から移住定住のプロモーションをしていくというのはいい。山崎高校に生活環境科があったと思うし、宍粟は食を中心としたライフスタイルが実現できる地域だという仮説が成り立つ。その仮説を裏付けるのは、食のいろいろな方向性を確認するような調査をしていこう。
委員	インタビューの日程調整をしてもらってもいいのではないかな。加藤さんも含めて。1番目の日本酒の人はぜひ入れてほしい。日本酒発祥の地のPRも弱いように思う。あと、3番の人（松村さん）も、あえて宍粟市に来た理由を聞いてみたい。他にはできるだけ若めの方がいいように思う。
アドバイザー	そういう打ち出し方はできそうか。
事務局	もともとは今ある森林の家族時間のHPにどういったことを追加していくかという話だったとは思うが。
アドバイザー	これは宍粟市の本体のHPに大きく出てきてもいいくらいの話になっている。人口減少対策の柱になってもいいくらいのものである。今は森林がテーマとなっているが、森林というどうしても木こりのイメージがあって、それと健康とはバッティングはしないと思う。地域創生で進められている「森林から創まる地域創生」の中に、食や健康が入る余地があるのか。まち全体として推していければ、「この町は健康のまちなんだ」と注目もされると思う。ここに来たいと思う人も出てくると思う。大事になる可能性もある。とりあえずは、今のインタビューとアンケートを進めていくということで。
事務局	当初今回の会は、どの人を選んでどういう内容を聞いていこうかとなる予定だったが。
アドバイザー	委員も言っていたがアクセスしやすい人から、とりあえず1人目にあってみよう。インタビューでいろいろ分かれば、2番目の人にはそれを踏まえた形で進めていければよい。次回はリストの中のいずれかの人に来ていただくか、こちらから出かけていかして、話を聞くというイメージかと思う。
事務局	1番の人（琴地さん）だと、山陽盃さんに行かせていただく形になるかと思う。
アドバイザー	もう動き始めたほうがいいのかと思うので、次回加藤さんと琴地さんの2人にインタビューをしてもいいかなと思う。できるなら千種の中島さんなどでもいいと思う。
事務局	中島さんもインタビューなどには応じていただけると思う
アドバイザー	最終的には、食や健康をPRするサイトを作ることと、食や健康に関連するサービスを拡充し

	<p>ていくことが考えられる。例えば高校の生活環境科の教育メニューを充実させるとか、健康という面で森林セラピーも該当する。食に関する産業、学校給食など。サイトで発信していくことと連動する形で、少しでも中身が改善されていく形になればいいと思う。ゴールとなる数年後に向かって、今はとりあえずヒアリングと、方向性に光があるのかどうかを探っていく。実際に宍粟市にきている人が、食や健康に関する関心があるのかどうか。移住された立場から、宍粟がこういうテーマを掲げた時に光って見える地域かどうか。食と宍粟のまちのイメージがあっているかどうかは、確認する必要がある。実際にあっている感じはするが。あっていれば、次のステップに進んでいく。</p> <p>施策としては、教育委員会の施策、地域創生の施策などいろいろ考えられる。空き家にしても宍粟の木材を使った健康住宅を作りたいという人に補助をするというように。健康住宅をたくさん作ろうとしている工務店などはあるか。</p>
事務局	市内にもある。宍粟市は省エネ健康住宅の会員になっている。
アドバイザー	<p>宍粟市は健康住宅がたくさんある、あるいは作ろうと思えばコストも少なく済むなど、のアピールできるポイントがあるならばぜひPRすべき。学校給食なども、子育て世代にはたまらなくいい内容。PRするからには、嘘にならないように広報課と担当課の間でうまく連携をとらないといけな。このような方向性で、具体的には何をやるということを念頭に置いて、今できる調査などを進めていくことが必要。</p> <p>宍粟市と食と健康というテーマが合うものか、移住した人に確認して、食とか健康に意識が高い人が来ているならば、その人たちから見た宍粟の課題は何かということを知る。また、その人たちが見てここがすごいということがあれば、それも生かしていく。</p> <p>宍粟市に関心を持つ人が健康志向の人かどうか、そういう人たちにはどのようなニーズがあるか。全てではないにしても、子育ても含めて宍粟市は食や健康志向の強い人が集まってきているのか。ニーズにあるもの、ないものを探る。また、市役所の中でも、この方向性がいいのかという確認は必要。</p> <p>食や健康にあうようなポテンシャルはどれほどあるのか、健康住宅のメーカー、学校給食、生活環境学科、宍粟牛など、実際の強みを出せる地域かどうか資源の調査をして、それがマッチしてくれればいい展開になってくると思う。調査の結果、あまりなかったという話になってしまえば少しがっかり来ってしまうが。こういった情報を整理していくと、PRサイトの素材はたくさんできる。素材とニーズ把握がきちりできていれば、情報発信がしやすい。</p> <p>秘書広報課の仕事としては広げすぎているか。</p>
事務局	インタビューを次回できるように調整させていただく。食と健康についても、関係部署との調整を図る必要がある。また、森林の家族時間にどう落とし込んでいくかについても考える必要がある。
アドバイザー	この「森林の家族時間」は長く続けているサイトか。
事務局	去年立ち上げたサイトではあるが、まだ一度も更新していない。森林を活かした子育てをという視点で立ち上げたサイトである。実際にインタビューなどもしているが、内容は更新はされていない。
アドバイザー	森林というのが、普通の生活者にとってどんなメリットがあるのか。森林は森林でいいんだけど、どういった効能があるのかという部分がもう少し出るといいかなという気はする。具体的に森林が近くにあって、食と健康といったメリットにつながればいいと思う。森林と食と健康は矛盾していないので、もう少し出るといいかなという気はする。
事務局	パッケージは出来あがっているが、中にどのくらい内容を追加することができるのか。このペ

	<p>ージに入って、そこから食と健康という内容を追加できるか、他にも訪問者の興味によって内容を追加していくことができるのか。</p> <p>事務局 どちらかというと、子育てというところが中心になっている。</p> <p>アドバイザー 健康な子育てという視点。病気になるというよりも、プラスになるレベルの健康。より、心も体も元気という感じ。ぜんそくの子どもがここに来ると発作が収まるというようなことはあるのか。</p> <p>事務局 たまには聞くこともある。</p> <p>アドバイザー このサイトをこの取組の中で編集していくにしても、もう少し先の話にはなれると思うが。まずは調査を進めていきたい。今年の夏くらいに調査が終わっていると、私たちの任期の中で方向性が見えてくると思う。</p> <p>~~~~~</p> <p>アドバイザー インタビューは相手と日を設定して、前井さんと私と宮辻と・・・4人ほどでして議事録に起こせば、その結果をもって進めていける。日程を確保して、1人か2人でも行ける人だけで行く。確定したら、行けない人から質問をあらかじめ聞いておく。どんどん進めていったほうが良い。まずは20代の山崎の人にインタビューできればよい。動き出したらどんどん意識も高まってきて、成果も見えてくるように思う。</p> <p>事務局 まず2～3月に琴治さんの日程調整をしてみる。3番の人（松村さん）にもあたっていいと思う。</p> <div data-bbox="512 1167 1273 1594" data-label="Image"> </div> <p>(1:52:09)</p>
--	---